

日本・カンボジア 国際消防防災フォーラムの開催

消防庁国民保護・防災部国際協力官 永作 卓士

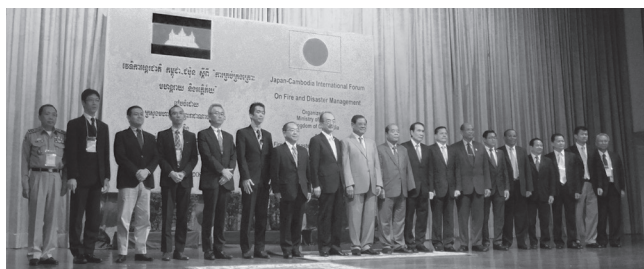
消防庁では、平成26年9月3日、4日にカンボジア王国プノンペン市において、カンボジア王国内務省との共催により「日本・カンボジア国際消防防災フォーラム」を開催しました。本稿では、その概要を紹介します。

はじめに

アジア諸国においては、経済発展や都市化が進展しており、国民の生命・財産や都市の重要インフラ、各種施設等の火災や自然災害から守るため、消防防災体制を拡充する必要性が高まっています。

このような中で、人命救助や消火、火災予防の技術や制度について、我が国の消防から習得したいという要望が増大しています。

これまで数多くの災害を経験し、それを基に組織・制度づくりや技術の向上など消防防災体制の充実を図ってきた我が国の知見を諸外国に提供することは、国際協力の面で大きな意義があります。



消防庁では、これまでのアジア諸国に対する消防防災分野での研修生受入れや専門家の派遣等を通じた国際協力に加え、我が国の消防防災技術・制度・体制等をアジア諸国に広く紹介する国際消防防災フォーラムを平成19年度から開催しています。

フォーラムの概要

フォーラムは、首都プノンペン市において、カンボジア側から副首相兼内務大臣、国家災害委員会担当上級大臣をはじめ、カンボジア全国から消防関係者、日本側からは、在カンボジア日本国大使館、独立行政法人国際協力機構カンボジア事務所及び消防関係企業の方々や総勢約230名の



参加により開催されました。

開会式終了後、ソー・ケイン副首相は、会場内に設けられた消防関係企業の展示ブースに立ち寄られ、企業担当者からの説明を熱心に耳を傾けておりました。

(1) プログラム

9月3日(水)

◆開会挨拶

ソー・ケイン副首相兼内務大臣
隈丸優次在カンボジア王国日本国大使

◆発表

〈日本側〉

- ①日本の消防概況と消防力の強化
- ②日本の消防職員の人材育成

〈カンボジア側〉

- I カンボジアにおける災害リスクマネジメントの現状
- II カンボジアにおける火災管理

9月4日(木)

◆発表

〈日本側〉

- ③都市化における防火安全対策

〈カンボジア側〉

- III カンボジアの消防分野における人材育成
- IV カンボジアにおける防火と消防システム

◆現地視察・訪問

- i プノンペン市警察消防署
- ii カンボジア王国国家災害管理委員会

◆閉会挨拶

北崎秀一消防庁審議官

ニユム・バンダー国家災害委員会担当上級大臣

(2) 発表概要

〈日本側発表〉

①日本の消防概況と消防力の強化

日本の消防の歴史や、消防活動の概要、消防力の整備指針についての説明を行いました。

②日本の消防職員の人材育成

消防学校での教育体制や、消防学校で実際に行われている実科訓練や座学の内容についての説明や、JICA課題別研修（消防防災技術研修、救急救助技術研修）について紹介を行った。

③都市化における防火安全対策

日本の大規模・高層建築物の火災実例、ホテルや百貨店に設置を義務づけている消防用設備の例の紹介を行った。
〈カンボジア側発表〉

I. カンボジアにおける災害リスクマネジメントの現状

カンボジア国家災害対策委員会の組織概要や自然災害に対応できる強い組織体制についての発表がありました。

II. カンボジアにおける火災管理

カンボジア国内で用いられている消防用設備の紹介や、防火対策上、カンボジアで直面している課題についての発表がありました。

III. カンボジアの消防分野における人材育成

オーストラリアの消防職員から技術指導を受けている様子や、消防車やはしご車の操作方法の訓練、学生に対する防火指導を行う取組などについて発表がありました。

IV. カンボジアにおける防火と消防システム

カンボジアの消防法での可燃物質の取扱いに関する規定内容や、危険物の取扱いに関する市民向けの啓発ビデオの紹介が行われました。

(3) 消防署及び国家災害管理委員会への訪問

フォーラム2日目は、プノンペン市警察消防署及び国家災害管理委員会を訪問しました。



消防署では、消防車両や消防職員が装着している防火衣・防火帽は、日本から供与されたものが第一線で活躍しており、日本の消防本部名が記載されたもの

が大切に使用されております。しかし、車両に積載されている資機材では、十分な消防活動を行うことは困難である様子がうかがえました。

国家災害管理委員会では、ニユム・バンダー国家災害管理委員会担当上級大臣から、「国内で災害が発生すると、



特に貧困層の経済的な被害が生じ、国の発展に大きな損失が生じる」ことや、「被災者の救援、復興に向けた人材の育成が重要である」とのお話がありました。

カンボジア王国の消防事情

カンボジア王国の消防行政は、国の機関である内務省国家警察武器・爆発物・火災管理部が所掌しており、救急業務は国立病院や民間の病院が担当しています。また、内務省は、国家警察の他、行政監査局、総合行政局、官房室の4局1室の体制がとられています。

消防署は、全国に38か所設置されており、消防職員は614人で業務が行われています。カンボジア国内では、年間約300件～400件の火災が発生しており、主な発生源は漏電、ろうそくの火、線香、ストーブ等です。

また、武器・爆発物・火災管理局以外にも、軍警察消防部署、民間航空庁空港航空部署及び石油会社が所有する自衛消防隊が有り、大規模な火災が発生した際には協力する体制があります。

カンボジアの消防概況

	カンボジア	(参考) 日本
面積	約18.1万km ²	約38万km ²
人口	約1,470万人	約1億2,710万人
消防職員	614人	約16万人
消防団員	—	約87万人
消防車両	106台	約10万台

おわりに

近年、カンボジアでは年7%を超える経済成長が続き、特にプノンペン市においては、高層建築物が建ち並び、都市化が進展している一方、地方部においては、洪水などの自然災害が毎年のように発生しており、火災や自然災害から守るべき人命・財産やインフラが増大しています。また、アセアンが統合されると、人口約6億人の大経済圏が生まれ、人や物の流れが活性化されることが予想されます。今後とも、我が国の消防制度や災害対応のノウハウに加え、消防用資機材の供与や消防設備の技術基準の導入等を支援していく必要があると考えています。



カンボジアの消防概況